

三重県中小企業・小規模企業振興条例

目次

- 1 前文 (P 2)
- 2 目的 (P 3)
- 3 中小企業・小規模企業の範囲及び用語の定義 (P 4)
- 4 基本理念 (P 5)
- 5 関係機関の責務・役割等 (P 6)
- 6 ものづくり産業に携わる中小企業・小規模企業の振興 (P 9)
- 7 サービス産業、伝統産業及び地場産業に携わる中小企業・小規模企業の振興並びにまちづくりによる地域の活性化 (P 10)
- 8 小規模企業に対する支援 (P 11)
- 9 三重県版経営向上計画の認定等 (P 12)
- 10 人材の育成及び確保 (P 13)
- 11 資金供給の円滑化 (P 14)
- 12 創業及び第二創業の促進 (P 15)
- 13 事業承継への支援 (P 16)
- 14 販路の拡大に対する支援及び海外における事業展開の促進 (P 17)
- 15 情報の提供及び顕彰 (P 18)
- 16 みえ中小企業・小規模企業振興推進協議会の設置等 (P 18)
- 17 財政上の措置 (P 19)
- 18 附則 (P 19)

(前文)

本県の中小企業・小規模企業は、本県の経済をけん引し、地域社会の持続的な形成及び維持に寄与している重要な存在である。また、本県の北部では製造業が集積し、本県の南部では地域資源を活用した産業及び観光業が盛んであるなど、県内には多様な中小企業・小規模企業が数多く存在し、地域の雇用を支えている。

本県が有する世界に誇るべき歴史、文化及び風土の中で貫かれてきたものは、伝統及び技術を受け継ぎながらも、時代の変化に対応する精神である。

昨今、世界においては、国際的な競争及び海外の市場の変化が激しさを増しており、特に、世界と直結する事業を展開しているグローバル企業が立地する本県の経済は、世界経済の影響を受けやすい産業構造にあるため、今後、世界経済の構造変化への対応が一層求められる。また、国内においては、人口減少社会が到来し、今後、事業の拡大だけでなく、少子高齢化、地域の過疎化等、人口減少社会における新たな社会的な課題の解決への対応が一層求められる。

今まさに、本県の中小企業・小規模企業は、この大きな構造変化を好機として捉え、伝統及び技術を受け継ぎながら時代の変化に対応するという本県に根付く精神をもって、その機動性及び地域性を発揮し、新たな事業の展開に果敢に取り組んでいくことが必要である。

県は、中小企業・小規模企業の経営の安定及び向上とともに、中小企業・小規模企業の新たな価値の創造及び挑戦を促進するため、特に小規模企業に配慮しつつ、人材の育成、資金供給の円滑化、創業及び第二創業の促進、事業承継の促進、さらに海外への進出及び海外の企業との連携など中小企業・小規模企業の特성에応じた支援を行うことで、中小企業・小規模企業の意欲を引き出す必要がある。また、中小企業・小規模企業の振興に当たっては、関係機関と協力しながら、県が先頭に立って推進していく。

本県の中小企業・小規模企業の振興を通じて、本県の中小企業・小規模企業がその特色を活かしながら時代の変化に対応していくことは、本県の経済の持続的な発展及び県民生活の向上のみならず、日本全体をけん引していくことにつながる。このことを県民全体で共有し、中小企業・小規模企業の振興を県政の重要課題として位置付け、時代の変化への対応に必要な支援を迅速かつ的確に実施していくためにこの条例を制定する。

(目的)

第1条 この条例は、中小企業・小規模企業の果たす役割の重要性に鑑み、中小企業・小規模企業の振興について、基本理念を定め、県の責務、中小企業・小規模企業の努力及び市町、中小企業・小規模企業に関する団体等の役割を明らかにするとともに、中小企業・小規模企業の振興に関する施策の基本となる事項を定めることにより、中小企業・小規模企業の振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって中小企業・小規模企業が経済的社会的環境の変化に対応し、本県の経済の持続的な発展及び県民生活の向上に寄与することを目的とする。

【制定の趣旨】

本条は、条例制定の目的について明記しています。

ここでは、前文にあるような中小企業・小規模企業の果たす役割の重要性を鑑み、本条例において、中小企業・小規模企業の振興についての基本理念を定め、県の責務、中小企業・小規模企業の努力及び市町、中小企業・小規模企業に関する団体等の役割等を明らかにするとともに、中小企業・小規模企業振興に関する施策の基本となる事項を定めることとしています。

(中小企業・小規模企業の範囲及び用語の定義)

第2条 この条例に基づいて講ずる県の施策の対象とする中小企業は、おおむね次に掲げる事業者であって県内に主たる事務所又は事業所を有するもの（次項に規定する小規模企業を除く。）とし、その範囲は、県の施策が次条の基本理念（以下この条及び第4条から第12条までにおいて「基本理念」という。）の実現を図るため効率的に実施されるよう施策ごとに定めるものとする。

一 資本金の額又は出資の総額が3億円以下の会社並びに常時使用する従業員の数が300人以下の会社及び個人であって、製造業、建設業、運輸業その他の業種（次号から第4号までに掲げる業種を除く。）に属する事業を主たる事業として営むもの

二 資本金の額又は出資の総額が1億円以下の会社並びに常時使用する従業員の数が100人以下の会社及び個人であって、卸売業に属する事業を主たる事業として営むもの

三 資本金の額又は出資の総額が5千万円以下の会社並びに常時使用する従業員の数が100人以下の会社及び個人であって、サービス業に属する事業を主たる事業として営むもの

四 資本金の額又は出資の総額が5千万円以下の会社並びに常時使用する従業員の数が50人以下の会社及び個人であって、小売業に属する事業を主たる事業として営むもの

2 この条例に基づいて講ずる県の施策の対象とする小規模企業は、おおむね常時使用する従業員の数が20人（商業又はサービス業に属する事業を主たる事業として営む者については、5人）以下の事業者であって県内に主たる事務所又は事業所を有するものとし、その範囲は、県の施策が基本理念の実現を図るため効率的に実施されるよう施策ごとに定めるものとする。

3 この条例において「中小企業・小規模企業」とは、第1項に規定する中小企業及び前項に規定する小規模企業をいう。

4 この条例において「中小企業・小規模企業に関する団体」とは、商工会法（昭和35年法律第89号）第3条に規定する商工会（第15条第2項において「商工会」という。）、同法第55条の2に規定する商工会連合会、商工会議所法（昭和28年法律第143号）第6条に規定する商工会議所（第15条第2項において「商工会議所」という。）、中小企業等協同組合法（昭和24年法律第181号）第70条に規定する都道府県中小企業団体中央会、中小企業支援法（昭和38年法律第147号）第7条第1項の規定により指定された特定支援事業を行う者、信用保証協会法（昭和28年法律第196条）第1条に規定する信用保証協会等中小企業・小規模企業の振興を目的とする団体をいう。

5 この条例において「教育機関」とは、学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する学校その他職業に必要な能力を育成することを目的とする機関をいう。

【制定の趣旨】

本条は、この条例において掲げる用語の定義について明記しています。

(基本理念)

- 第3条 中小企業・小規模企業の振興については、中小企業・小規模企業が経済的社会的環境の変化に対応して、経営の向上に対する主体的な努力を促進することを旨としなければならない。
- 2 中小企業・小規模企業の振興については、地域の雇用を促進し、地域社会の持続的な形成及び維持に寄与している中小企業・小規模企業の果たす役割の重要性に鑑みることが旨としなければならない。
- 3 中小企業・小規模企業の振興については、経営資源（設備、技術、個人の有する知識及び技能その他の事業活動に活用される資源をいう。第15条第1項及び第20条において同じ。）の確保が困難である小規模企業に関して、経営の規模及び形態を勘案し、かつ、きめ細かく支援することを旨としなければならない。
- 4 中小企業・小規模企業の振興については、県、国、市町、中小企業・小規模企業、中小企業・小規模企業に関する団体、教育機関、金融機関（県内に本店又は支店を有する銀行、信用金庫その他の金融機関をいう。次条第2項及び第10条において同じ。）、大企業（中小企業・小規模企業以外の事業者であって県内に主たる事務所又は事業所を有するものをいう。次条第2項及び第11条において同じ。）及び県民が連携し、及び協力することを旨としなければならない。

【制定の趣旨】

本条は、中小企業・小規模企業の振興について、基本理念を定めています。

まず、第1項において、中小企業・小規模企業の主体的な努力を促していくことを中小企業・小規模企業の振興の基本とし、第2項において、前文にも記載したとおり、中小企業・小規模企業が地域の雇用を支え、地域社会の持続的な形成や維持に寄与している役割の重要性を鑑みて振興する旨を明記しています。

第3項は、中小企業・小規模企業の中で、特に、小規模企業に関する規定です。小規模企業は、県内企業の約90%を占め、地域の経済や暮らしを支え、コミュニティの中核的役割を担っており、大変重要な存在であると考えています。そのため、小規模企業に対しては十分に配慮した取組を行っていくことが重要であり、地域の商工会、商工会議所等と連携し、きめ細かな支援を行っていく必要があります。

第4項は、中小企業・小規模企業の振興に当たっては、関係者との緊密な連携協力を行うことが重要であることから規定しています。

(県の責務)

第4条 県は、基本理念にのっとり、地域の経済の実情を踏まえた継続的な振興を図るため、中小企業・小規模企業の振興に関する施策について策定し、総合的かつ計画的に実施する責務を有する。

2 県は、中小企業・小規模企業の振興に関する施策の実施に当たっては、国、市町、中小企業・小規模企業、中小企業・小規模企業に関する団体、教育機関、金融機関、大企業及び県民と連携し、協力して取り組むものとする。

【制定の趣旨】

本条は、県の責務を規定するものであり、基本理念にのっとり、第1項では、中小企業・小規模企業の振興に関する施策を県が総合的に実施することを規定したものです。その際、国等との役割分担を意識し、県は地域経済の実情を踏まえ継続的な振興を図ります。第2項では、関係者等との連携協力を通じて中小企業・小規模企業振興施策を実施するよう取り組む責務を規定したものです。

(中小企業・小規模企業の主体的な努力)

第5条 中小企業・小規模企業は、基本理念にのっとり、経済的社会的環境の変化に対応して、主体的に経営の向上を図るよう努めるものとする。

2 中小企業・小規模企業は、雇用の機会の確保、人材の育成その他雇用における環境の整備に努めるものとする。

3 中小企業・小規模企業は、事業活動を通じて、地域社会の持続的な形成及び維持に寄与するよう努めるものとする。

【制定の趣旨】

本条は、中小企業・小規模企業の努力を規定したものです。第1項において、中小企業・小規模企業が自主的な努力を行うよう努めること、第2項において、地域における雇用機会の確保、人材の育成、あるいはワーク・ライフ・バランスといった雇用環境の整備に努めること、第3項において、豊かで活力のある地域社会の形成に寄与するよう努めることを規定したものです。

(市町の役割)

第6条 市町は、基本理念にのっとり、市町の地域の特性を活かして、国、県、他の市町等と連携し、中小企業・小規模企業の振興に関する施策を実施するよう努めるものとする。

【制定の趣旨】

本条は、市町の役割を規定するものであり、基本理念にのっとり、中小企業・小規模企業の振興に関する施策を市町が地域の特性を活かして、国及び県、他市町等と連携し実施するよう努める役割があることを規定したものです。

県と市町の具体的な連携については、みえ中小企業・小規模企業推進協議会での議論や資金繰り支援での連携を想定しています。

(中小企業・小規模企業に関する団体の役割)

第7条 中小企業・小規模企業に関する団体は、基本理念にのっとり、中小企業・小規模企業の経営の安定及び向上の支援に積極的に取り組むとともに、国、県、市町等が実施する中小企業・小規模企業の振興に関する施策に協力するよう努めるものとする。

【制定の趣旨】

本条は、中小企業・小規模企業に関する団体の役割を規定するものであり、基本理念にのっとり、中小企業・小規模企業の経営の安定及び向上に係る支援などに積極的に取り組む役割があることを規定するとともに、県が行う中小企業・小規模企業振興施策に協力するよう努める役割があることを規定したものです。

(教育機関の役割)

第8条 教育機関は、基本理念にのっとり、教育活動を通じて、勤労及び職業に対する意識の啓発その他の必要な協力を行うよう努めるものとする。

【制定の趣旨】

本条は、教育機関の役割を規定するものであり、基本理念にのっとり、キャリア教育を含め、望ましい勤労観・職業観の育成、職業に関する知識や技能を身に付けさせることなどが必要であることを規定したものです。なお、地元の産業を支える人材の育成という観点から、三重県の特徴である産業の集積についても、教育の中で重視していくことが必要であると考えています。

(高等教育機関の役割)

第9条 高等教育機関（学校教育法第83条に規定する大学及び同法第115条に規定する高等専門学校をいう。第17条第1項及び第21条第2項において同じ。）は、基本理念にのっとり、中小企業・小規模企業が行う研究開発及び人材の育成に対する協力その他の必要な協力を行うよう努めるものとする。

【制定の趣旨】

本条は、大学、高等専門学校などの高等教育機関の役割を規定するものであり、基本理念にのっとり、中小企業・小規模企業が経営の向上に取り組むため、中小企業・小規模企業が行う研究開発及び人材育成などに対する協力を努める役割があることを規定したものです。

(金融機関の役割)

第10条 金融機関は、基本理念にのっとり、中小企業・小規模企業の円滑な資金の調達及び経営の支援その他の必要な協力を行うとともに、中小企業・小規模企業に対する支援を通じ、地域の経済及び社会への貢献につなげていくよう努めるものとする。

【制定の趣旨】

本条は、金融機関の役割を規定するものであり、基本理念にのっとり、中小企業・小規模企業の円滑な資金調達及び改善に協力する役割とともに、中小企業・小規模企業に対する支援等を通じ、地域の経済・社会への貢献につなげていくよう努める役割があることを規定したものです。

(大企業の役割)

第11条 大企業は、基本理念にのっとり、地域の雇用を促進し、地域社会の持続的な形成及び維持に寄与している中小企業・小規模企業の果たす役割の重要性について理解を深め、中小企業・小規模企業と連携した事業の創出その他の必要な協力を行うよう努めるものとする。

【制定の趣旨】

本条は、大企業の役割を規定するものであり、基本理念にのっとり、中小企業・小規模企業が本県の経済を支える重要な存在であることを鑑み、国及び県、市町が行う中小企業・小規模企業振興施策に大企業が協力するなど中小企業・小規模企業と連携した事業創出の創出に努める役割があることを規定しています。

(県民の理解及び協力)

第12条 県民は、基本理念にのっとり、地域の雇用を促進し、地域社会の持続的な形成及び維持に寄与している中小企業・小規模企業の果たす役割の重要性について理解を深め、中小企業・小規模企業の振興が本県の経済の持続的な発展及び県民生活の向上に寄与することについて理解するよう努めるとともに、国、県、市町等が実施する中小企業・小規模企業の振興に関する施策に協力するよう努めるものとする。

【制定の趣旨】

本条は、県民の中小企業・小規模企業振興に対する理解と協力を規定するものであり、基本理念にのっとり、中小企業・小規模企業が地域経済の担い手であること、中小企業・小規模企業の振興が地域社会の持続的な発展及び県民の生活に寄与していることについての理解を深めていただくことを明記しています。あわせて、国及び県、市町が行う中小企業・小規模企業振興施策に県民が協力するよう努める役割があることを規定しています。県として、県民に対し、中小企業・小規模企業の振興について普及・啓発を行う仕組みを通じ、県民の方々が中小企業・小規模企業の振興について理解を深めていただくことを図ります。

第13条 県は、ものづくり産業（製造業その他の工業製品の設計、製造又は修理と密接に関連する事業活動を行う業種に係る産業をいう。）に携わる中小企業・小規模企業における高付加価値化（工業製品の付加価値を高めることをいう。）並びに新たな工業製品及び商品の開発の促進を図るとともに、中小企業・小規模企業の新たな基盤技術及び技能の習得を促進するため、技術開発、新しい分野への進出、設備導入及び同じ業種又は異なる業種との連携の促進の支援その他の事業環境の整備に必要な措置を講ずるものとする。

【制定の趣旨】

本条は、ものづくり中小企業・小規模企業の振興について明記しています。

近年の新興国の急激なキャッチアップにより、国内中小企業・小規模企業と海外企業との技術力の差がなくなりつつあります。国内でも、同業者等との価格競争の中で、県内中小企業・小規模企業が生き残っていくには優位に立てる技術力を維持・発展させることがますます重要になっています。また、グローバル経済の中、地域経済を守るため、産業の集積を促進することが必要です。

三重県内においては、輸送用機械、電子部品・デバイス、化学関連を中心に多様な技術を有するものづくり中小企業・小規模企業が数多く集積しており、サプライチェーンの一翼を担っています。このため、三重県の2012年の製造品出荷額は全国9位で、電子部品・デバイスの製造品出荷額は全国1位、輸送用機械は全国4位、化学工業は全国9位と、高い競争力を有しています。この競争力を維持・強化するために、ものづくり中小企業・小規模企業の育成が引き続き重要です。

このため、県として、中小企業・小規模企業の技術開発の支援、新分野への進出の支援、高度化・効率化を図るための設備投資に対する支援、産学官連携や農商工連携等を含めた同業種・異業種との連携の促進、技術人材の育成・確保、知的財産に関する支援などの施策を講ずるとともに、必要に応じて、優遇税制の措置など事業環境の整備に取り組んでいきます。

(サービス産業、伝統産業及び地場産業に携わる中小企業・小規模企業の振興並びにまちづくりによる地域の活性化)

- 第14条 県は、サービス産業に携わる中小企業・小規模企業の振興を図るため、生産性の向上及び顧客の需要を踏まえた事業の展開の促進その他の必要な施策を講ずるものとする。
- 2 県は、商店街の支援を通じて、地域の特色を活かしたまちづくりを促進するため、商店街の活性化に必要な施策を講ずるものとする。
- 3 県は、伝統産業（伝統的工芸品産業の振興に関する法律（昭和49年法律第57号）第2条第1項の規定により指定された県内の伝統的工芸品その他知事が指定する三重県指定伝統工芸品に係る産業をいう。）及び地場産業（中小企業による地域産業資源を活用した事業活動の促進に関する法律（平成19年法律第39号）第2条第2項に規定する地域産業資源を活用した産業をいう。）に携わる中小企業・小規模企業の振興を図るため、生活様式の多様化に対応した商品の開発及び当該産業に特有の技能の承継の支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

【制定の趣旨】

みえ産業振興戦略では、「ものづくり産業」と「サービス産業」とは、経済をけん引していく際の「産業の両輪」となるべきものとして捉えています。実際、三重県経済の付加価値額、県内雇用の6割以上を占め、事業所数でも県内中小企業・小規模企業の約8割がサービス産業となっています。

まず、第1項では、観光業、卸売業、小売業、運輸業などサービス産業に特化した施策について明記しています。例えば、観光業においては、三重県にいかに来てもらうかが重要であり、県外への情報発信やコーディネートする人材の育成などが必要です。このため、県として、サービス産業のノウハウや労務・生産管理等に関する人材育成や新しい観光モデルの構築等に取り組んでいきます。

第2項では、まちづくりと一体となった中小企業・小規模企業支援について明記しています。商店街をはじめとする地域商業について、その衰退により、コミュニティ機能の低下や住民の日常生活上の支障などの影響が懸念されています。商店街などの商業の集積の活性化は、地域のインフラ基盤として捉えていく必要があります。このため、県として、まちづくりと一体となって商店街を活性化するための勉強会やネットワーク創出のための取組などに対して支援を行います。

第3項では、伝統産業や地場産業の振興について明記しています。三重県の伝統産業や地場産業は、地域の歴史・文化・風土と密接に結びつき脈々と営まれてきた産業であり、これまでも地域を支えてきただけでなく、本県の魅力を語る上でも欠かせないものと考えています。一方で、ライフスタイルの変化による需要の低迷や輸入品などにより、その経営環境は厳しい状況にあります。このため、県として、デザイナー・クリエイター等との連携による地域資源を活用した新商品開発や大都市圏への販路開拓、後継者の確保と技術の伝承・向上への取組等に対する支援を行います。

(小規模企業に対する支援)

第15条 県は、経営資源の確保が困難である小規模企業に対するきめ細かな支援体制を構築するものとする。

2 県は、地域の商工会、商工会議所等が実施する小規模企業の経営に関する相談及び指導を行う体制の充実並びに課題の解決に向けた取組に対して必要な施策を講ずるものとする。

3 県は、小規模企業等の連携による商品の開発及び販路の開拓並びに新たなサービスの創出の支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

【制定の趣旨】

本条は、基本理念の第3項に基づき、小規模企業に対する支援について規定したものです。

小規模企業は、県内企業の約90%を占め、地域の経済や暮らしを支え、コミュニティの中核的役割を担っており、大変重要な存在であると考えています。

少子高齢化や地域の過疎化が進む中で、小規模企業は利益は少ないものの、社会的課題を解決する重要な存在であり、ソーシャルビジネスやコミュニティビジネス※といった事業を含め、地域密着型の産業に着目したきめ細かい支援が必要であると考えます。

そのため、第1項では、経営不振や担い手不足に直面する小規模企業や支援策の情報が得ることが難しい小規模企業に対する相談窓口を新たに設置し、きめ細かい支援体制を構築していくこととします。

第2項では、商工会、商工会議所等を通じて行う経営に関する相談や指導の充実を図るため、経営指導員等に係る経費を支援するとともに、小規模企業が共通して抱える課題や地域課題の解決に向け、商工会、商工会議所等が地域に密着して行う取組に対して必要な施策を講ずることとします。

第3項では、小規模企業等の連携（グループ化）を通じた商品の開発及び販路開拓、新たなサービスの創出といった小規模企業のトライアル事業を支援していきます。

※ソーシャルビジネス／コミュニティビジネス

地域社会においては、環境保護、高齢者・障がい者の介護・福祉から、子育て支援、まちづくり、観光等に至るまで、多種多様な社会課題が顕在化しつつあります。このような地域社会の課題解決に向けて、住民、NPO、企業など、様々な主体が協力しながらビジネスの手法を活用して取り組むのが、ソーシャルビジネス／コミュニティビジネスです（経済産業省ホームページより）。

(三重県版経営向上計画の認定等)

- 第16条 中小企業・小規模企業は、規則で定めるところにより、経営の向上に係る計画（以下この条において単に「計画」という。）を作成し、これを知事に提出して、計画が適当である旨の認定を受けることができる。
- 2 計画には、次に掲げる事項を記載しなければならない。
 - 一 前項の認定を受けようとする中小企業・小規模企業の概要
 - 二 経営の向上に係る事業の内容
 - 三 前二号に掲げるもののほか、規則で定める事項
 - 3 知事は、第1項の規定による認定の申請があった場合において、当該申請に係る計画が次の各号のいずれにも適合するものであると認めるときは、その認定をするものとする。
 - 一 計画が経営の向上を確実に遂行するに当たり適切なものであること。
 - 二 計画が地域社会の持続的な形成及び維持に寄与するものであること。
 - 三 前二号に掲げるもののほか、規則で定める基準を満たすものであること。
 - 4 県は、第1項の規定による計画の認定を受けた中小企業・小規模企業（以下この条において「認定中小企業・小規模企業」という。）が計画を着実に実行できるよう、認定中小企業・小規模企業に対して資金が円滑に供給されるために必要な措置その他の必要な支援を講ずるものとする。
 - 5 認定中小企業・小規模企業は、第1項の認定を受けた計画を変更しようとするときは、知事の認定を受けなければならない。ただし、規則で定める軽微な変更をしようとするときは、この限りでない。
 - 6 知事は、認定中小企業・小規模企業が次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、当該認定を取り消すことができる。
 - 一 第1項の認定を受けた計画（前項の規定による変更があったときは、当該変更後の計画をいう。以下この条において同じ。）に係る事業の中止若しくは廃止その他の事由により認定中小企業・小規模企業が計画に従って事業を行っていないとき又は計画に虚偽の記載をして第1項の認定を受けたとき。
 - 二 中小企業・小規模企業に該当しなくなったとき。
 - 7 前各項に定めるもののほか、計画の認定等に関し必要な事項は、規則で定める。

【制定の趣旨】

基本理念において、中小企業・小規模企業の経営の向上に対する主体的な努力を促進することを旨としています。中小企業・小規模企業の挑戦を後押しするだけでなく、中小企業・小規模企業のやる気を引き出すために、県独自の経営の向上に係る計画（「三重県版経営向上計画」）の認定制度を創設し、その計画が着実に実行できるような措置を講ずることを定めています。

この計画は、多様な中小企業・小規模企業の発展段階に応じて作られるもので、経営課題の抽出・発見やその解決に向けた取組、事業の再生に向けた取組、地域の多様な需要に応えるための取組さらには全国や世界の市場を目指して成長していこうとする取組など中小企業・小規模企業の様々な挑戦を後押しすることを想定しています。また、本制度は、商工業だけでなく、介護や福祉、建設、土木といった業種や、中小企業・小規模企業が取り組む農業の6次産業化、農商工連携など新しい事業展開についても対象として想定しています。

計画の作成に当たっては、地域の中小企業・小規模企業に関する団体との連携が重要であると考えており、経営指導員に対する本制度の普及啓発や経営指導員のスキルアップのための支援、さらには退職人材など企業インストラクターの配置など、地域の中小企業・小規模企業に関する団体と連携しながら、中小企業・小規模企業を支える支援体制の強化に努めていきます。

県から計画の認定を受けた中小企業・小規模企業には、低利融資の適用や高度な専門家の派遣、ファンド助成など、計画を後押しする措置を講じていくこととします。

(人材の育成及び確保)

第17条 県は、中小企業・小規模企業の経営者の育成を図るため、高等教育機関等との連携を通じて、経営者、経営者を補佐する人材及び経営を行おうとしている者の育成その他の必要な施策を講ずるものとする。

2 県は、中小企業・小規模企業において必要とされる能力を備えた人材の育成及び確保を図るため、中小企業・小規模企業に関する団体、教育機関等の関係機関と連携し、若者のキャリアアップ（これまで経験した職務その他の能力を開発する機会を通じ、職業能力の向上が図られることをいう。）のための取組その他の必要な施策を講ずるものとする。

3 県は、中小企業・小規模企業が、女性、高齢者、障がい者等の多様な就業の機会を提供することができるよう必要な施策を講ずるものとする。

【制定の趣旨】

本条は、人材の育成・確保について明記しています。

第1項は経営者の育成、第2項は従業員を念頭においた実践的な能力を備えた人材の育成・確保、第3項は女性や高齢者、障がい者を念頭においた多様な就業機会の提供について定めています。

まず、経営者の育成については、経営ノウハウの向上とあわせて、経営者としての自覚・覚悟の醸成や経営者同士のネットワークが重要です。このため、高等教育機関等と連携した経営人材の育成とともに、経営者同士のネットワーク構築など必要な施策を講ずるものとしています。

また、経営資源の少ない中小企業・小規模企業では、独自で人材育成をすることが困難であるとともに、大企業を志向する若者等が多い中、人材確保や定着にも苦労しています。一方、三重県内の職業系高校では、自動車科、電気科、情報科や食物調理科など、全国的に見てもレベルの高い学科があり、優秀な若手人材を多く輩出しています。このため、教育機関など関係機関と連携し、製造現場のリーダーや研究・開発設計に携わる人材の育成などキャリアアップにつながる人材育成を行います。また、新卒者や退職人材等とのマッチング支援、座学と組み合わせたインターンシップの支援、さらには、県内の高等教育機関に在学する学生が、就職先として県内企業を選択するよう中小企業・小規模企業の情報発信支援などの取組を通じて、中小企業・小規模企業の人材確保や定着を支援していきます。

さらに、中小企業・小規模企業は豊かで活力のある地域社会の維持・形成のために、女性、高齢者、障がい者が生き生きと働くことができる雇用環境を提供することが望ましいと考えます。女性、高齢者、障がい者にとって、地域の中小企業・小規模企業は身近な働く場として重要な存在でもあります。このため、県として、女性や高齢者、障がい者などが生き生きと働くことができる就業機会を提供しようとする中小企業・小規模企業に対して、ワーク・ライフ・バランスを推進するための就業規則等の見直しに対する支援やハローワーク等と連携した就職面接会などの支援等を行います。

第18条 県は、中小企業・小規模企業に対して資金の円滑な供給を図るため、融資制度及び信用補完事業の充実その他の必要な施策を講ずるものとする。

【制定の趣旨】

中小企業・小規模企業にとって、資金調達は経営上の大きな課題のひとつです。中小企業・小規模企業が経営の見直しや技術開発を進めるために資金調達を行おうとする際、不動産担保や保証人確保の難しさなどから、金融機関から円滑な融資が受けにくい状況にあります。また、中小企業・小規模企業の中には、事業の継続には問題ないものの、過去の債務が過大であるため、新たな設備投資が困難なケースもあります。

本条では、こうした事情を鑑み、中小企業・小規模企業への資金供給の円滑化に県として取り組んでいくことを明記しています。

具体的には、県では、中小企業・小規模企業が事業経営に必要とする設備資金や運転資金を円滑に調達するため、金融機関、信用保証協会、地域の中小企業・小規模企業に関する団体などの協力を得て融資制度を設け、利子補給や保証料補助などの支援を行い、利用者負担の軽減を図っています。今後も、引き続き、県の融資制度を継続していくとともに、県の融資制度の使い勝手の向上に努めていきます。また、中小企業・小規模企業が抱える金融取引における悩みごとや事業再生に関して、専門家が相談に応じる金融相談窓口の充実などに努めるとともに、必要に応じて、「再チャレンジサポート資金」などによる資金供給を行います。

(創業及び第二創業の促進)

第19条 県は、中小企業・小規模企業の円滑な創業及び第二創業（既に事業を営んでいる中小企業・小規模企業が先代から事業を引き継いだ場合等において、事業の形態の転換又は新しい事業若しくは分野に進出することをいう。以下この条において同じ。）を促進するため、創業及び第二創業に関する意欲の醸成並びに相談を行う体制の充実その他の必要な施策を講ずるものとする。

【制定の趣旨】

本条は、創業及び第二創業の促進について明記しています。第二創業とは、既に事業を営んでいる中小企業・小規模企業が先代から事業を引き継いだ場合において、事業の形態の転換又は新しい事業若しくは分野に進出することのほか、先代から事業を引き継いだ場合以外にも、客観的に自社を見直して、経営の多角化や事業転換を図る場合も含まれます。

創業は経済社会のダイナミズムの原動力であり、雇用の創出に大きな役割を果たしています。また、地域や住民、県民等のニーズに応えた創業が生まれることは、新たな産業の創出につながり、引いては地域経済の活性化にも貢献することが期待されることから、一定数の創業が継続することが望ましいと考えます。

県では、創業や第二創業に関する意欲の醸成及び相談体制の充実など、必要な施策を講ずることとします。

具体的には、商工会、商工会議所など中小企業・小規模企業に関する団体が行う創業の心構えや知識の習得のための取組への支援や、他縣市との連携により、起業・創業及び第二創業の意欲の醸成を図っていきます。また、創業及び第二創業に関する相談窓口を新たに設置します。

加えて、創業及び第二創業に対する金融支援に関して、従来からある「創業・再挑戦アシスト資金」について、商工会、商工会議所と連携した運用を新たに行うとともに、市町が行う創業のための金融支援に対して県も利子補給や保証料補助といった支援を行う制度を構築します。

(事業承継への支援)

第20条 県は、中小企業・小規模企業に蓄積された経営資源が散逸することなく事業が承継され、地域社会の持続的な形成及び維持が図られるよう、後継者の育成に対する支援等円滑な事業の承継を促進するために必要な施策を講ずるものとする。

【制定の趣旨】

本条では、事業承継への支援について明記しています。

事業承継は、家族経営の多い特に小規模企業にとって重要な課題となっています。また、三重県での事業活動の継続性の観点から、事業承継は重要な課題です。特に、若者の流出などによる生産年齢人口の減少が著しく、過疎化、高齢化が進んでいる県南部地域において、中小企業・小規模企業の事業承継が促進されることは、雇用の場の確保が図られ、地域社会の維持・発展にもつながると考えられます。

一方、県のアンケート結果によると、技術・技能等の承継状況について、「うまくいっている」とする割合が、中小企業は約3割、小規模企業は約2割と低い状況です。また、熟練技能・技術の標準化・マニュアル化について、中小企業は約6割、小規模企業では約4割に留まっています。

そのため、県として、後継者教育に対する支援や事業承継に関する相談体制を新たに構築するなど必要な施策を講ずることとします。

具体的には、商工会、商工会議所など中小企業・小規模企業に関する団体が行う後継者育成のための勉強会等を支援していきます。また、M&Aを含めた事業引き継ぎのための新たな相談窓口の設置について検討していきます。さらに、事業を承継する側への啓発についても必要な施策を検討していきます。

加えて、地域において、地域に残したいビジネスを発掘するとともに、後継者の担い手不足に苦慮している中小企業・小規模企業に対して、地域内外から当該ビジネスの担い手候補を探し、マッチングする事業を想定しています。その際、ビジネスの計画策定支援や県の融資制度による支援などを行い、地域における事業承継を促進します。

第21条 県は、国内及び海外での市場の開拓に関する取組を行う中小企業・小規模企業の販路の拡大を促進するため、中小企業・小規模企業等の連携及び共同での販路の開拓の支援並びに県内及び県外において販売する機会の充実を図るとともに、国内及び海外の見本市、商談会等に出展する中小企業・小規模企業への効果的かつ効率的な支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

2 県は、中小企業・小規模企業が事業の基盤を県内に維持しつつ行う海外における事業の展開を促進するため、海外における産学官の経済交流（中小企業・小規模企業、中小企業・小規模企業に関する団体、高等教育機関、県及び市町が、経済交流を行うことをいう。）の促進その他の必要な施策を講ずるものとする。

【制定の趣旨】

本条では、販路の開拓及び海外展開の促進について明記しています。

中小企業・小規模企業は、マーケティングに人員を振り向けるだけの余裕に乏しいため、広域的な販路開拓の手がかりがない、あるいは新商品の新規性が高く具体的な市場が顕在化していない等の理由から、単独での販路開拓が困難な事業者が少なくありません。

また、本格的な海外展開に関しては、情報、資金、人材といった点で躊躇している企業が少なくないことが現状です。さらに、三重県内製造業と県外企業について海外展開の取組を比較すると、県内製造業の海外展開の取組比率は、県外企業に比べ全般的に低くなっています。

こうしたことから、中小企業・小規模企業のグループ化や共同による販路開拓を支援することが重要です。また、大都市圏での情報発信の充実を図るとともに、国内外の見本市、商談会等に出展する中小企業・小規模企業への支援を明記しています。

また、中小企業・小規模企業の海外展開を促進するため、海外との産学官の経済交流をはじめ、海外ビジネスサポートデスクやジェットロを通じ、現地サポート体制の充実、海外現地での資金調達などの環境整備に取り組んでいきます。

(情報の提供及び顕彰)

第22条 県は、中小企業・小規模企業が有する魅力を周知するため、中小企業・小規模企業に関する情報の提供の支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

2 県は、本県の産業の活性化に寄与した中小企業・小規模企業の顕彰及び公表を行うものとする。

【制定の趣旨】

本条は、中小企業・小規模企業の情報発信及び顕彰について明記しています。

中小企業・小規模企業は相対的に自社の強みや良さに気付いていない、自社をアピールするノウハウが不足しているなど、素晴らしい技術や製品を持っていても、なかなか自社の認知の向上につなげることができない県内中小企業・小規模企業は少なくありません。

このため、県として、県内中小企業・小規模企業に関する情報を発信していくための手立てを講じることが必要です。具体的には、県内中小企業・小規模企業を発信するカタログ作りや若者に対する県内中小企業・小規模企業の情報発信を支援するとともに、自社に一層自信を持っていただくため、県内の中小企業・小規模企業に対する顕彰制度を創設する予定です。

(みえ中小企業・小規模企業振興推進協議会の設置等)

第23条 県は、中小企業・小規模企業の振興について、地域の経済の実情に応じて具体的かつ計画的に推進するため、地域ごとにみえ中小企業・小規模企業振興推進協議会の開催その他の必要な施策を講ずるものとする。

2 県は、中小企業・小規模企業、中小企業・小規模企業に関する団体、市町等に対する施策の広報及び当該施策における利便性の向上に努めるものとする。

【制定の趣旨】

本条は、中小企業・小規模企業振興の推進について明記しています。

本条例に基づく中小企業・小規模企業振興が、地域において具体的かつ計画的に実行されていくことが重要です。そのため、地域ごとに中小企業・小規模企業振興を推進するための仕組み（みえ中小企業・小規模企業振興推進協議会）を構築することを考えています。なお、みえ中小企業・小規模企業振興推進協議会の実施状況については、定期的に公表することを考えています。

また、県の中小企業・小規模企業振興施策を利用しやすくするために、県は、施策の広報や使い勝手の向上に努めていくことを規定しています。

(財政上の措置)

第24条 県は、中小企業・小規模企業の振興に関する施策を実施するため、必要な財政上の措置を講ずるよう努めるものとする。

【制定の趣旨】

本条は、基本理念に基づいて実施される中小企業・小規模企業の振興に関する施策に当たっては、必要な予算措置を講ずるよう努めるものとするという方針を示したものです。

(附則)

- 1 この条例は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 この条例の規定については、経済的社会的環境の変化及びこの条例に基づく施策の実施の状況を勘案して必要があると認められるときは、検討が加えられ、その結果に基づいて必要な措置が講ぜられるものとする。

【制定の趣旨】

附則では、本条例の施行日、見直し規定を示しています。